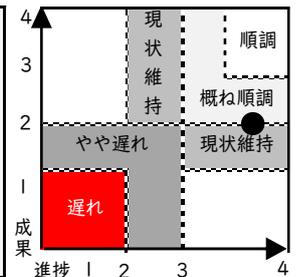


令和7年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	4	豊かな心と生きる力をはぐくむまち	評価結果
基本施策	1	子ども・子育て支援の充実	
		結婚から妊娠・出産・子育てにいたる切れ目のない支援の充実を図るとともに、地域全体で子どもの健やかな成長や子育てを支えていくための総合的な環境整備を推進します。	
担当課	こども未来課、学校教育課、指導室、生涯教育課、図書館		



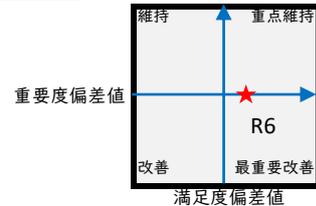
目標達成状況

外部評価対象施策

【満足度と重要度による相関図】

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (R3⇒R6)
満足度	17.9	17.3	16.1	13位/32施策⇒13位/32施策
重要度	0.493	0.508	0.589	17位/32施策⇒8位/32施策
改善度	2.97	-2.19	4.08	20位/32施策⇒11位/32施策



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2024年調査:-30.68～21.78]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	評価
出生数	428人 (H29)	↗	出生届が提出された子どもの人数	320人	300人	305人	271人	D
子育てに関する相談件数	489件 (H28)	↗	えみふる構成部門が連携して対応した子育てに関する相談件数 R7～子育てに関する相談件数	184件	196件	205件	1,626件	
子育て支援センターの利用親子組数	1,458組 (H28)	↗	子育て支援センター事業に参加した親子の数(延人数)	505組	563組	622組	560組	D
乳幼児健康診査受診率	96.3% (H28)	↗	乳幼児健康診査対象児のうち、受診者の占める割合	98.2%	97.8%	98.4%	98.5%	A
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点) A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 D:現状値及び昨年度ともに低下 A:現状値より低下したが、昨年度より向上 C:現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数				成果指標評価		2.0		B

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に中程度にあり、本施策に対する満足度との関係性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は比較的高く、これまで以上に施策を推進が求められる。また、年齢区別では、49歳以下の満足度は一定程度あるものの、30代・60代・70代の不満の割合が上昇している。 ・R6年度の不妊・不育症治療費助成制度利用者のうち、34人が妊娠届を提出し、9人が出産に至った。加えて20人がR7年度に出産を予定しており、少子化対策としての効果は期待できるが、出生数の改善には至っていない。出生数の回復は、晩婚・晩産化や養育費等の経済面における不安、若年層の転出超過など、様々な要因が複雑に絡み合っていると考えられる。 ・こども家庭センターが設置されたことにより、えみふる構成部門において連携対応していた子育て相談や支援が一元化された。 ・子育て支援センターの利用親子組数は、少子化や早期就園の増加などから現状値を大きく下回っているが、ここ数年は横ばいの状況。 ・乳幼児健診は、各健診の案内を個別に通知したことや親自身の意識の高さもあり、高い受診率を維持している。
----	--

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦やこども、子育て世帯への一体的な相談支援を行うため、子育て世代包括支援センター(母子保健)と子ども家庭総合支援拠点(児童福祉)、子育て総合支援センター、子ども発達支援センターを統合した「こども家庭センター」を設置した。 ・各健診において支援が必要な親や児のスクリーニングを実施し、また、他職種とも協力しながら支援をすることができた。未受診者に対しても引き続き状況確認をすとともに勸奨を行っている。 ・子育て支援センター事業やひなたっ子の運営にあつては、子育て中の家庭が、悩みや不安の解消と気軽に相談できる環境づくりの推進の観点から、事業を運営している。 ・ファミリー・サポート・センター事業については、会員数、援助活動に大幅な減少は見られず、一定のニーズがあったほか、病児・病後児保育についてもファミリー・サポート・センター事業で併せて実施し、保護者の子育てと就労の両立を支援した。 ・こどもの医療費の無償化を高校生年代まで拡充することにより、子育て世帯の経済的な負担軽減を図り、こどもの健康増進に寄与した。
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> 子育て家庭の不安やストレスを軽減し、拠りどころの機能として、3歳以下の子どもをもつ家庭が気軽に遊びや相談ができる環境として、地域親子ひろばや地域子育て支援センターなどの環境維持や行事等の推進に取り組んでいく必要がある。 すこやか健康手帳アプリの充実のほか、子ども・子育てポータルサイトを刷新し、子ども・子育て関連施策等の情報発信を強化する。
-------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策を講じながら、乳幼児健診を実施するとともに、未受診者についても引き続き受診勧奨を行う。 えみふるの核施設であるあそびの広場の利用が、各部門の相談支援のきっかけとなることから、市内利用者が安全・安心に利用できる環境づくりに取り組んでいく。また、あそびの広場での教室事業等の自主事業の充実により、市内利用者のリピート率の向上を図る。
--------	---

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
子ども家庭センター事業 【子ども未来課】	子ども家庭センター設置に伴う、児童相談システムの導入、電話回線等の整備、備品購入等 19,985千円	B	B	B
子ども医療費助成事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 助成件数 就学前児童 R3:36,034件 R4:34,315件 R5:40,179件 R6:34,058件 小学生 R3:30,433件 R4:31,987件 R5:36,747件 R6:36,234件 中学生 R3:47件 R4:19件 R5:5,202件 R6:14,495件 高校生 R5:5,007件 R6:14,786件 所得超過 R6 1,481件 	A	A	A
ひとり親家庭支援事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 母子・父子自立支援員相談対応件数 延べ432件 母子家庭等自立支援教育訓練給付金、高等職業訓練促進給付金9人 高等学校卒業程度認定試験合格支援給付金 0件 	B	A	A
不妊・不育症治療費助成事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 生殖補助医療費助成 62件（助成額6,844,202円） 一般不妊治療費助成 42件（助成額1,735,800円） 先進不妊治療費助成 35件（助成額 962,668円） 不育症治療費助成 0件（助成額 0円） 	A	A	A
母子保健推進事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 母子手帳交付数273人 ・プレママ教室受講数30人 ・パパママ教室受講数102人 乳幼児健康診査受診数1,376人 ・フッ素塗布受診数269人 新生児聴覚検査受診数264人 ・股関節脱臼検査受診数276人 ・産後ケア利用数37人 ・訪問指導数830人 ・健康教育人数268人 ・健康相談人数374人 	A	A	A
出産・子育て応援事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 伴走型相談支援 1,599件 出産応援ギフト 290件 14,500,000円 子育て応援ギフト 285件 14,250,000円 	A	A	A
子ども・子育て支援事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 産前産後ヘルパー事業 登録67名、利用250回 子育て短期支援事業 利用延日数0日 子育て支援夜間養護等事業 利用延日数9日 子どもサポートセンター「いま、ここ」が運営するファミリーサポートはおはおに業務委託し実施。 援助活動件数290件、依頼会員300名、提供会員63名 保育サービス講習会を6月と11月に開催 	B	A	A
子育て総合支援センター事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 子育て総合支援センター事業に参加した親子の数(延組数)560組 子育て総合支援センター事業 おしゃべりルーム484組1,050人、青空広場18組37名 リフレッシュ支援事業14組14人、パパといっしょ35組75人 子ども発達支援センター事業 発達相談支援件数 254件 つどいの広場事業 ひなたっ子193回9,819人 家庭児童相談 407件 個別ケース検討会議 27回 	A	A	A
あそびの広場運営事業 【子ども未来課】	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数 市内 19,330人 市外 36,258人 団体利用者1,425人 計57,013人 	A	A	A
児童厚生施設運営事業 【学校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数 147,496人 内訳(幼児725人 小学生136,986人 中学生2,421人 高校生257人 大人7,107人) 児童館等地域見守り事業(おはようキッズ事業) 登録者727人 	A	A	A
青少年育成事業 【生涯教育課】	<ul style="list-style-type: none"> 少年の主張岩見沢大会 中学校9校 13人 ・子ども発明工夫展 小学校9校 30人 炭鉄港ツアー 中止 わくわく子どもデイキャンプ 29人 地域子ども会野球大会 49人 子ども書初大会 65人 ・子どもかるた大会 3チーム 	B	B	C

放課後児童健全育成事業 【学校教育課】	・児童館のほか、公共施設や小学校、地域施設等の計20カ所において、放課後児童クラブを設置し運営した。 ・小学校1年生までから6年生までの登録児童数(R7.3月末現在) 1,184人	A	A	A
保育所入所運営事業 【こども未来課】	保育所:公立1(定員90人)法人立11(定員780人)、認定こども園:公立1(定員60人)法人立2(定員177人)、小規模保育所:私立4(定員76人) 計19施設(定員1,183人) 第3子以降保育料無料化に加え、第2子保育料無料化(同時入所の場合)に取り組むとともに、保育所を利用するすべての家庭の負担軽減のため、保育料の減額・細分化を実施。	A	A	A
栗沢認定こども園運営事業 【こども未来課】	認定こども園を栗沢地域に開設。幼稚園と保育所、両方の機能を兼ね備え、両方の良さを活かした施設で、保護者がライフスタイルに合わせて利用。 定員:1号認定15人、2号3号認定45人。 入園状況:1号認定3人、2号3号認定35人(R6.4.1現在)	A	A	B
病児保育運営事業 【こども未来課】	病気の回復期に至らない子を専門施設で保育することにより、保護者の子育てと就労の両立を支援。 登録児童数(R7.3月末現在):114人 利用児童延べ人数(R7.3月末現在):病児保育115人	A	A	B
保育・教育人材確保事業 【こども未来課】	保育士又は幼稚園教諭の人材を確保するために必要な経費の一部について補助を実施。 交付実績(R6):保育所3園、計4人分 幼稚園2園、計4人分	B	B	B
幼稚園入所運営事業 【こども未来課】	幼稚園:法人立5(定員570人)、入所人員453人(R6.4.1現在) 令和元年10月から、子ども・子育て支援法の改正により満3歳から5歳までのすべてのこどもの保育料が無償となった。	A	A	A
ブックスタート事業 【図書館】	・令和7年3月までのブックスタートパックの贈呈数 303組(配布率99.3%) ・3歳未満乳幼児への読み聞かせ会「ベビカフェ」開催 年3回 ・絵本の読み聞かせ 本館 月3回、来夢21 月1回、北村学習交流館 月1回	A	A	A
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 【達成度】 【有効性】 【効率性】 A 十分である 非常に有効 改善の余地なし B 概ね十分である 有効 概ね効率が良い C やや不十分である やや有効でない 改善の余地あり D 不十分である 有効でない 大きく改善の余地あり		事業評価		3.7 A

事務事業一覧

(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費	中段:職員数	下段:総事業費(人件費含む)
		R4実績	R5実績	R6実績
1 子ども医療費助成事業 【こども未来課】	こどもの健康増進、子育て世帯の経済的負担の軽減のため、こどもの医療費の助成を北海道の基準に加えて、市独自施策として拡充して実施。	155,216 (2.0人) 169,416	217,245 (2.0人) 231,645	268,309 (2.0人) 282,909
2 ひとり親家庭支援事業 【こども未来課】	ひとり親からの各種相談に対して、母子・父子自立支援員による適切な助言指導を行う。また、就業支援、経済的支援策として母子家庭等自立支援給付金事業の給付を実施し、ひとり親家庭の経済的・精神的自立の促進を図る。	24,925 (0.0人) 24,925	16,345 (0.0人) 16,345	19,524 (0.0人) 19,524
3 児童手当等給付事業 【こども未来課】	家庭生活の安定と次代の社会を担う児童の健全育成のため、ひとり親家庭の生活の安定と自立、児童福祉の増進のため、児童手当及び児童扶養手当を支給するとともに、経済的困難を抱える妊産婦について、助産施設入所に係る費用を負担し援護する。	1,144,014 (3.0人) 1,165,314	1,091,913 (3.0人) 1,113,513	1,187,600 (3.0人) 1,209,500
4 こども家庭センター事業 【こども未来課】	子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を一体化した「こども家庭センター」を設置し、母子保健や児童福祉における、妊産婦やこども・子育て世帯への一体的な相談支援体制の充実・強化を図る。			19,985 (0.0人) 19,985

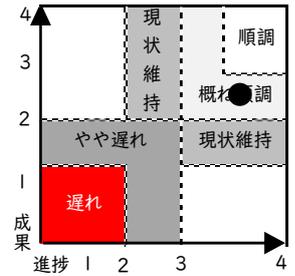
5	子ども・子育て支援事業 【こども未来課】	「岩見沢市子ども・子育てプラン」に基づき、ショートステイ、トワイライトステイや産前産後ヘルパーなどの事業を実施することにより、こどもが健康やかに成長し、安心して子育てができる環境づくりを行う。また、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「第2期子ども・子育てプラン」を実施する。	12,517 (2.0人) 26,717	12,196 (2.0人) 26,596	12,709 (2.0人) 27,309
6	子育て総合支援センター事業 【こども未来課】	こども家庭センターを中心に子育てに関する相談・助言等や親子の交流事業を実施するほか、子ども発達支援センター事業、児童福祉に関する相談、要保護児童対策地域協議会を開催する等、関係機関と連携を図りながら、総合的な子育て支援を行う。	19,880 (4.0人) 48,280	23,238 (4.0人) 52,038	23,709 (3.0人) 45,609
7	あそびの広場運営事業 【こども未来課】	こどもの成長に応じた安全な遊び場を提供し、こどもの心身の発達を促すとともに、市民に安心して子育てをすることができる環境及びこどもを中心とした交流の場を提供する。	31,699 (1.0人) 38,799	33,426 (1.0人) 40,626	32,408 (1.0人) 39,708
8	不妊・不育症治療費助成事業 【こども未来課】	赤ちゃんを望む夫婦に経済的負担の大きい不妊症及び不育症の治療費の一部を助成し、安心して妊娠、出産ができるよう支援する。	3,469 (0.0人) 3,469	6,912 (0.0人) 6,912	9,543 (0.0人) 9,543
9	ふれあい子どもセンター運営事業 【こども未来課】	市内に認可保育所等は22か所あり、唯一の公立保育所として、保育を必要とする児童に特別保育事業を取り入れながら保育を行う。	44,927 (3.0人) 66,227	46,210 (2.0人) 60,610	51,073 (2.0人) 65,673
10	栗沢認定こども園運営事業 【こども未来課】	認定こども園を栗沢地域に開設。幼稚園と保育所、両方の機能を兼ね備え、両方の良さを活かした施設で、保護者がライフスタイルに合わせて利用。 定員：1号認定15人、2号3号認定45人。	63,530 (0.0人) 63,530	68,202 (0.0人) 68,202	67,338 (0.0人) 67,338
11	保育所入所運営事業 【こども未来課】	市内11か所の法人立保育園、2か所の法人立認定こども園、4か所の地域型保育事業に係る保育所入所運営費の負担。法人立保育園の整備振興を図るため、借入れた整備資金の当該年度中に支払いを要する元金及び利子に対し予算の範囲内で補助金を交付する。障害児保育、障害児保育特別対策、延長保育、休日保育、一時預かり保育の実施。	1,558,310 (3.0人) 1,579,610	1,593,643 (3.0人) 1,615,243	1,738,882 (3.0人) 1,760,782
12	特別保育所運営事業 【こども未来課】	へき地の保育に欠ける児童に対し、必要な保護を行うため、へき地保育所を運営する。岩見沢市へき地保育所条例に基づく運営～北村中央保育所、北村幌達布保育所、美流渡保育所	46,664 (2.0人) 60,864	36,104 (1.0人) 43,304	36,083 (1.0人) 43,383
13	病児保育運営事業 【こども未来課】	【病児保育】児童が病気の「回復期に至らない場合」であり、かつ、当面の症状の急変が認められない場合において、当該児童を病院・診療所、保育所等に付設された専用スペース又は本事業のための専用施設で一時的に保育する事業。《実施場所：岩見沢市立病児保育施設》	10,462 (0.0人) 10,462	12,050 (0.0人) 12,050	12,414 (0.0人) 12,414
14	子育て施設等利用給付事業 【こども未来課】	幼児教育・保育の無償化に伴い認可外保育施設等を利用する保護者に対して、施設等利用費の負担をする。	23,786 (0.0人) 23,786	20,003 (0.0人) 20,003	21,458 (0.0人) 21,458
15	保育・教育人材確保事業 【こども未来課】	岩見沢市への就職をすすめるため、保育士、幼稚園教諭に対して就職準備金を支給し、人材の確保と幼児教育・保育の質の維持向上を図る。	1,800 (0.0人) 1,800	1,000 (0.0人) 1,000	1,600 (0.0人) 1,600
16	児童厚生施設運営事業 【学校教育課】	地域の子育て支援拠点として、児童に健全な遊びを提供し、心とからだの健康を育むことができるよう、市内13児童館等の運営を行う。保護者の就労を支援するため、早朝の見守りが必要な留守家庭児童を受け入れる「おはようキッズ事業」を実施する。	70,957 (1.0人) 78,057	73,761 (1.0人) 80,961	82,278 (1.0人) 89,578
17	母子保健推進事業 【こども未来課】	妊婦から乳幼児期までの母子の健康管理と異常の早期発見並びに健全育成のため、健康診査、健康教育、家庭訪問等を実施。	34,150 (4.5人) 66,100	34,216 (5.5人) 73,816	31,363 (5.0人) 67,863
18	幼稚園入所運営事業 【こども未来課】	市内5か所の私立幼稚園及び市外3か所の私立幼稚園（岩見沢市の児童）に係る幼稚園入所運営費の負担。在園児のための幼稚園終了後の預かり保育の実施。	473,740 (0.0人) 473,740	488,141 (1.0人) 495,341	504,704 (1.0人) 512,004

19	青少年対策事業 【指導室】	青少年センターが中心となり、街頭補導活動や環境浄化モニターによる巡回活動を行い、子どもの健全育成と非行防止を図る。	7,364	7,656	8,078
			(0.0人)	(0.0人)	(1.0人)
			7,364	7,656	15,378
20	青少年育成事業 【生涯教育課】	青少年が健全な思考や判断力を持ち、将来自らの意思で自立し、社会参加していくことができるよう各種事業を通じて健全育成を図る。	3,450	3,277	4,551
			(1.0人)	(1.0人)	(0.6人)
			10,550	10,477	8,931
21	放課後児童健全育成事業 【学校教育課】	児童館をはじめ、小学校や地域施設等21か所で放課後児童クラブを設置運営し、小学校1年生から6年生までの留守家庭児童の健全育成を図る。	124,370	180,177	147,116
			(1.0人)	(1.0人)	(1.0人)
			131,470	187,377	154,416
22	ブックスタート事業 【図書館】	全ての赤ちゃんへ絵本等のブックスタートバックを贈るほか、読み聞かせや絵本の紹介などのフォローアップ事業を行い、乳幼児と保護者の情操を育む。	1,227	1,182	1,109
			(1.0人)	(1.0人)	(1.0人)
			8,327	8,382	8,409

【外部評価意見】	<ul style="list-style-type: none"> ・「出生数」・「子育て支援センターの利用親子組数」について、人口減少により子どもを産む世代の人口が減っているため、絶対数ではなく割合で比較して評価されたい。 ・子どもの数を増やすために、子どもを持ちたいと思える環境整備に取り組まれない。
----------	---

令和7年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	4	豊かな心と生きる力をはぐくむまち	評価結果
基本施策	2	学校教育の充実 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育み、郷土に誇りと愛着をもった子どもを育てるため、一人ひとりの個性を活かし、能力を伸ばす学校教育を推進するとともに、安心して学ぶことのできる指導体制や教育環境の充実に努めます。	
	担当課	学校教育課、指導室、学校給食課、緑陵高等学校	

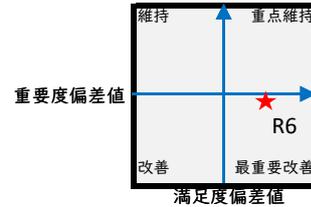


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (R3⇒R6)
満足度	20.4	18.3	15.4	10位/32施策⇒16位/32施策
重要度	0.527	0.531	0.627	9位/32施策⇒4位/32施策
改善度	4.68	0.14	10.06	17位/32施策⇒6位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2024年調査:-30.68～21.78]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	評価
全国学力・学習状況調査の平均正答率(小・中学校別)	※1 (H29)	↗	全国学力・学習状況調査の平均正答率	※4	※6	※8	※10	D
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の総合評価(小・中学校別)	※2 (H29)	↗	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の総合評価のC以上の割合	※5	※7	※9	※11	C
不登校の児童生徒の割合(小・中学校別)	※3 (H28)	↘	在籍児童生徒のうち、明確な理由がなく年間30日以上欠席した児童生徒の割合	小 1.3% 中 6.4%	小 1.7% 中 7.5%	小 2.0% 中 8.4%	小 1.7% 中 7.3%	A
※1:小～国語 A75%B56%・算数 A79%B46%、 ※1:中～国語 A77%B72%・数学 A67%B49% ※2:小(男 67.8%・女 70.3%)、中(男 56.3%・女 70.4%) ※3:小 0.3% 中 2.5% ※4:小～国語63%・算数68% 中～国語66%・数学59% ※5:小(男 60.7%・女73.8%)、中(男 65.0%・女 74.7%)				※6:小～国語66%・算数63% 中～国語69%・数学51% ※7:小(男 63.1%・女67.1%)、中(男 62.4%・女 74.1%) ※8:小～国語64%・算数61% 中～国語69%・数学52% ※9:小(男 60.2%・女63.2%)、中(男 60.2%・女 70.1%) ※10:小～国語65%・算数58% 中～国語56%・数学51% ※11:小(男 65.0%・女67.2%)、中(男 57.2%・女 68.7%)				
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点) A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年値ともに向上 C:現状値より向上したが、昨年値より低下 A:現状値より低下したが昨年値より向上 現状値より低下したが、昨年値とほぼ同数 B:現状値及び昨年値とほぼ同数 D:現状値及び昨年値ともに低下				成果指標評価		2.3		B

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に中程度であり、本施策に対する満足度との関係性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は高く、重点的に施策を推進していく必要がある。また、年齢区分別では、49歳以下の満足度は一定程度あるものの、どの年齢層でも不満の割合が比較的高い傾向にある。 ・全国学力・学習状況調査において、小学校の国語及び中学校数学は昨年度とほぼ同様、小学校の算数及び中学校の国語は低下した。また、小中学校の全教科で全国平均を下回っており、児童生徒の資質・能力の確実な定着に向けた授業改善が喫緊の課題である。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校の男女は昨年度よりも高かった。一方で中学校の男女は昨年度より低下した。中学校において、運動の楽しさや喜びを味わえる体育の授業や日常的に運動に親しむ活動等を推進していく必要がある。 ・不登校の児童生徒の割合において、外部講師を招聘し子どもたちが安心して学べる学習集団づくりに関する研修会を、年10日間実施したことにより、教職員の児童生徒観の転換が図られ、今年度は昨年度よりも低下した。
----	---

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学力については、市立教育研究所による分析・考察を経て、すべての学校で「身に付ける資質・能力を明確にし、子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業」を展開し、「主体的・対話的で深い学び」を通した確かな学力の追究が進められた。 ・体力については、教育研究所による分析・考察を経て、各校の体育の授業の改善が進められた。また、体育専科教員による巡回指導を行い、体育科の授業の質的向上を図った。さらに、希望した学校については、北海道教育大学岩見沢校の教授等による出前授業を行い、児童生徒の運動への興味関心を高めるとともに、専門性の高い指導を展開することができた。 ・登校支援室には50名の児童生徒が通っていたが、およそ36%が学校復帰した。また、登校支援室に通っていたすべての中学校3年生が高等学校へ進学した。 ・小学校低学年の不登校児童を対象とした「遊ぼう・楽しもうプロジェクト」を地域の方からの支援をうけ実施し、登校支援室で運動や創作活動に取り組んだ。 ・猛暑対策として小学校237室、中学校109室、緑陵高校21室の普通教室等にエアコンを設置することができた。
-------	---

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの確実な資質・能力の向上のため、教師の教科等分析力の向上や子どもの主体性を促すファシリテート力を磨くこと、自校の課題を踏まえ「個別最適な学び」と「協同的な学び」を具体化する指導課程の確立すること、子どもたちの学習スキルの向上と学習ルールの徹底を図っていく必要がある。 運動の楽しさや喜びが味わえる体育の授業の実現、外部の専門家等と連携した出前授業等の実施による教師の指導力の向上、家庭・地域と連携した運動やスポーツの奨励と運動習慣の形成等をより一層、充実させていく必要がある。 今年度、不登校児童生徒の割合が減少したものの、喫緊の課題であることに変わりはない。学校へ行けない理由は、家庭環境も含め多様化・複雑化しており、子どもが抱える課題に応じ、寄り添った丁寧な対応が必要である。そのため、教育支援センターや登校支援室等における専門職の充実など適切な支援を提供できる体制の整備が求められる。
-------	--

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学力については、身につける資質・能力を明確にし、子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開により、主体的・対話的な深い学びを実現し、学力向上を目指していく。 体力については、年間を通じて縄跳びやマラソン等に取り組む活動を企画し、日常的に運動に親しむ活動を確保していく。また、体育専科教員等による効果的な指導方法等についての発信の場を設け、市内教職員における体育科の指導改善につなげていく。 岩見沢市ピア・サポート研修を継続して実施するとともに、研修内容を自校及び市内全体に還元・共有し、子どもが安心して学ぶことができる学習集団の育成を図っていく。 教育支援センター及び登校支援室の役割として、学校訪問等を通じて、不登校になる前の児童生徒へのカウンセリングの充実を図ったり、SSWと連携したアウトリーチの強化を進めたりしていく。
--------	---

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
学校教育施設空調設備整備事業 【学校教育課】	・夏季の猛暑により児童・生徒が熱中症などの重大な健康被害に陥ることを防止し、快適で安全安心な学習環境を確保するため市内の小学校237室、中学校109室に空調設備(エアコン)の設置を行った。	A	A	B
緑陵高等学校空調設備整備事業 【緑陵高等学校】	・緑陵高校の普通教室など21室にエアコンを設置し、校内の室温を調節することで、近年の気温上昇により熱中症を引き起こす危険から生徒や教職員を守り、安心安全に授業や学校活動を行うことが出来るよう空調設備の整備を行った。	A	A	B
特別支援教育推進事業 【指導室】	・学校現場において、市内小中学校に29名の特別支援教育支援員と1名の学校看護師を配置し、個に応じたきめ細かい指導を行った。 ・特別支援コーディネーターや特別支援教育支援員を対象とした研修会を開催し、各校の取組の交流や教育支援センター及び北海道立特別支援センターの職員による講話等を行い、特別支援教育への理解を深めた。	A	A	A
教育指導振興事業 【指導室】	・市内小中学校における管理職、ミドルリーダー、若手教員を対象とした研修を、それぞれ5回実施し、教員のキャリアステージに応じた資質・能力の育成を図った。 ・いじめ問題対策連絡協議会を3回、定例のいじめ問題専門委員会を2回開催し、関係機関と連携し、いじめの防止等のための対策について協議を行った。	B	A	B
コミュニティ・スクール促進事業 【指導室】	・各CAの代表者が一堂に集う、学校運営協議会代表者会議を年2回開催した。各中学校区の取組の成果と課題の交流を通じて、自校区の取組の向上につなげた。 ・学校と地域の方がともに、登校時の見守り運動、防災訓練、お祭りの企画・運営、ゴミ拾い、ふるさと教育等を行い、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の具現化が行われた。	A	A	B
外国語指導助手活用事業 【指導室】	・市内小中学校及び緑陵高校にALT9名配置 ・中学校区でできるだけ同じALTが担当できるように、検討し再配置を行った。	B	A	B
教育支援センター事業 【指導室】	・教育支援センターへの相談件数は1,042件あり、多様化・複雑化する相談に専門的な知見のもと対応した。 ・不登校状態にある小学生を対象とした企画を実施し、運動や創作活動に取り組んだ。 ・登校支援室来室者50名に支援を行った。そのうち、中学3年生13名全員が高校への進学を果たした。	A	A	A
学力向上対策事業 【指導室】	・OKスタディは市内中学生449名参加、英検学習会は3級対策34名、4級対策53名が参加した。テキストの無料配布や時期を限定した講習会形式に変更したことにより、受講者が大幅に増加し、多くの生徒の基礎学力の向上や英語検定の取得を支援した。 ・土曜キッズ英会話を全10回実施し、延べ363人の参加があった。	A	A	A
教育研究所運営事業 【指導室】	・全国学力・学習状況調査をはじめとした、4つの調査の分析を行い、全校へ指導・助言した。 ・4つの研究部会を開設し、今日的な教育課題の解決を図る研究・指定事業の推進を行い、その成果を全校へ発信した。 ・市内教職員を対象とした12の講座を開催し、課題・対策の共有を通じ資質向上を図った。	B	A	B

学校給食共同調理所運営事業 【学校給食課】	市内小・中学校23校に1,035,263食を提供	B	B	B
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 【達成度】 【有効性】 【効率性】 A 十分である 非常に有効 改善の余地なし B 概ね十分である 有効 概ね効率が良い C やや不十分である やや有効でない 改善の余地あり D 不十分である 有効でない 大きく改善の余地あり		事業評価		3.6 A

事務事業一覧

(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R4実績	R5実績	R6実績
1 教育委員会運営事業 【学校教育課】	・教育委員会を開催し、教育行政方針の設定や重要案件の審議を行う。 ・教育委員会委員、教育長を対象とする各種会議に参加することにより、情報等を収集し、広域的な教育行政の推進を図る。	4,011 (2.0人)	4,251 (1.5人)	4,077 (2.0人)
2 教育委員会事務局管理事業 【学校教育課】	・教育委員会事務局の管理運営及び教育振興功労並びに教育実践奨励賞及び教育実践児童生徒優秀賞の表彰を行う。 ・PTA連合会事務局や岩見沢育英会など教育関係団体への補助を実施 ・通学区域審議会による審議をもとに小中学校適正配置計画(後期計画)を策定	7,486 (2.0人)	7,917 (1.5人)	8,012 (2.0人)
3 学校教育施設空調設備整備事業 【学校教育課】	・夏季の猛暑により児童・生徒が熱中症などの重大な健康被害に陥ることを防止し、快適で安全安心な学習環境を確保するため、小・中学校の普通教室等に空調設備(エアコン)を設置する。			521,395 (0.0人)
4 教育情報システム化推進事業 【学校教育課/指導室】	高度情報通信ネットワーク社会に適応できる人材の育成を図るとともに、多様で高度な市民ニーズに応えるため、ICTを活用した教育の情報化を推進する。	16,151 (1.6人)	15,344 (1.6人)	4,702 (1.6人)
5 ICT教育推進事業 【学校教育課/指導室】	ICTを活用した授業づくりを推進し、協働的な学びと個々の理解にあわせた個別最適な学びの充実を図るため、GIGAスクール構想に基づく一人一台の端末及びデジタル教科書を有効活用し、効果的な授業の実施に向け、ICTを活用した教育を推進する。	88,925 (0.0人)	83,429 (0.5人)	84,214 (0.5人)
6 教職員住宅管理事業 【学校教育課】	教職員住宅の維持管理。適時に修繕・補修を行い、教職員へ良質な住環境を提供することにより、教育の充実を図る。	30,731 (2.0人)	18,308 (0.8人)	300 (0.8人)
学び・心はぐくむ学校活動支援事業 【指導室】	子どもが輝く岩見沢の教育づくりを推進するため、学力向上に関する取り組みや農業などの体験活動など、各学校が創意工夫のもとで企画立案する活動及び各学校における地域ボランティアと連携した活動を支援する。	9,808 (0.3人)	7,919 (0.3人)	
7 特別支援教育推進事業 【指導室】	心身に障がいを持つ児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加に向けた、適切な就学支援を行う。	45,326 (2.9人)	50,995 (2.4人)	59,723 (0.4人)
8 特別支援教育振興事業 【学校教育課】	障がいを持つ子供達にそれぞれの障がいに応じた教育環境を整備するとともに、学用品費等の支援を行い、特別支援教育の普及奨励を図る。	12,966 (0.2人)	14,665 (0.2人)	14,724 (0.2人)
9 教育指導振興事業 【指導室】	新しい時代を拓く児童生徒の生きて働く学力の確実な定着及び心豊かで健全な成長を促す教育指導の充実を図り、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」を推進する。	4,708 (1.2人)	6,027 (0.6人)	7,199 (0.6人)
10 コミュニティ・スクール促進事業 【指導室】	市内中学校区におけるコミュニティ・スクールの活性化を図る。	1,310 (1.0人)	1,338 (1.0人)	4,617 (1.2人)
11 外国語指導助手活用事業 【指導室】	英語を使える児童生徒の育成を目指し、語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)により、外国語教育及び国際理解教育の充実を図る。	40,136 (0.6人)	40,872 (0.6人)	42,064 (0.6人)
		18,211 (2.0人)	15,051 (1.5人)	18,677 (2.0人)
		21,686 (2.0人)	18,717 (1.5人)	22,612 (2.0人)
		27,511 (1.6人)	26,864 (1.6人)	16,382 (1.6人)
		88,925 (0.0人)	87,029 (0.5人)	87,864 (0.5人)
		44,931 (2.0人)	24,068 (0.8人)	6,140 (0.8人)
		11,938 (0.3人)	10,079 (0.3人)	
		65,916 (2.9人)	68,275 (2.4人)	62,643 (0.4人)
		14,386 (0.2人)	16,105 (0.2人)	16,184 (0.2人)
		13,228 (1.2人)	10,347 (0.6人)	11,579 (0.6人)
		8,410 (1.0人)	8,538 (1.0人)	13,377 (1.2人)
		44,396 (0.6人)	45,192 (0.6人)	46,444 (0.6人)

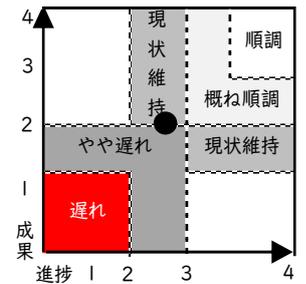
12	教育支援センター事業 【指導室】	教育支援コーディネーターを相談窓口とし、関係機関と連携しながら、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育専門員、スクールカウンセラー、スーパーバイザー、医療アドバイザーによる教育相談や、登校支援指導員による登校支援を行い、児童生徒、保護者、学校等を支援する。	16,825 (0.6人) 21,085	17,993 (0.5人) 21,593	19,342 (0.5人) 22,992
13	学力向上対策事業 【指導室】	子どもたちが自らの可能性を開花させ、人間として豊かな成長を遂げ、自己実現を図る確かな学力の定着を目指して、OKスタディ、土曜キッズ英会話を実施する。	3,358 (0.0人) 3,358	2,995 (0.1人) 3,715	4,274 (0.2人) 5,734
14	教育研究所運営事業 【指導室】	岩見沢市における教育上の諸課題を的確に把握し、その進歩改善のための調査・研究等の推進と充実に努める。 また、市民開放、地域・大学との連携事業の拠点として事業を推進する。	15,853 (0.8人) 21,533	20,583 (0.4人) 23,463	17,655 (0.4人) 20,575
15	小学校管理事業 【学校教育課】	児童が安全で安心できる環境の中で、学力と豊かな人間性を育てることができると教育環境づくりを推進する。	284,026 (3.2人) 306,746	290,408 (2.2人) 306,248	332,894 (2.2人) 348,954
16	小学校教育用コンピュータ整備事業 【学校教育課】	次世代を担う子どもたちが、初等教育段階からICTに触れ、情報活用能力を向上させることができるよう、情報教育に係る環境整備を行う。	39,653 (0.5人) 43,203	36,043 (0.5人) 39,643	34,429 (0.5人) 38,079
17	スクールバス運行管理事業 【学校教育課】	遠距離通学となる児童生徒の通学支援及び登下校の安全確保のためのスクールバスの運行を行なう。	73,940 (0.3人) 76,070	88,058 (0.3人) 90,218	90,243 (0.7人) 95,353
18	小学校就学援助事業 【学校教育課】	経済的理由によって就学困難な児童に学用品等の援助を行い、小学校における義務教育の円滑な実施に資する。	17,309 (0.7人) 22,279	18,218 (0.7人) 23,258	14,876 (0.7人) 19,986
19	児童健康管理事業 【学校教育課】	学校保健安全法に基づき、小学校における健康管理及び安全管理を進め、児童の健康保持を図り、学校教育の円滑な実施に努める。	17,822 (0.5人) 21,372	17,756 (0.5人) 21,356	17,877 (0.3人) 20,067
20	小学校教職員健康管理事業 【学校教育課】	学校保健安全法に基づき、小学校における健康管理及び安全管理を進め、教職員の健康保持を図り、学校教育の円滑な実施に努める。	3,571 (0.2人) 4,991	3,582 (0.2人) 5,022	3,851 (0.2人) 5,311
21	小学校校舎等管理事業 【学校教育課】	小学校の施設設備、維持管理、補修・修繕、計画的な設備の更新、グラウンド整備などを行う。施設の安全確保を第一に、教育環境の充実に努める。	160,075 (2.2人) 175,695	229,438 (1.6人) 240,958	54,436 (1.6人) 66,116
22	中学校管理事業 【学校教育課】	・生徒が安全で安心できる環境の中で、学力と豊かな人間性を育てることができると教育環境づくりを推進する。 ・部活動の地域移行を見据えた改革を進める。	226,083 (3.5人) 250,933	240,600 (2.5人) 258,600	239,192 (2.5人) 257,442
23	中学校教育用コンピュータ整備事業 【学校教育課】	次世代を担う子どもたちが、初等教育段階からICTに触れ、情報活用能力を向上させることができるよう、情報教育に係る環境整備を行う。	29,090 (0.5人) 32,640	21,397 (0.5人) 24,997	19,306 (0.5人) 22,956
24	中学校就学援助事業 【学校教育課】	経済的理由によって就学困難な児童に学用品等の援助を行い、中学校における義務教育の円滑な実施に資する。	23,365 (0.7人) 28,335	23,131 (0.7人) 28,171	21,902 (0.7人) 27,012
25	生徒健康管理事業 【学校教育課】	学校保健安全法に基づき、中学校における健康管理及び安全管理を進め、生徒の健康保持を図り、学校教育の円滑な実施に努める。	9,905 (0.5人) 13,455	10,029 (0.5人) 13,629	10,021 (0.3人) 12,211
26	中学校教職員健康管理事業 【学校教育課】	学校保健安全法に基づき、中学校における健康管理及び安全管理を進め、教職員の健康保持を図り、学校教育の円滑な実施に努める。	2,187 (0.2人) 3,607	2,240 (0.2人) 3,680	2,522 (0.2人) 3,982
27	中学校校舎等管理事業 【学校教育課】	中学校の施設設備の維持管理、補修・修繕、計画的な設備の更新、グラウンド整備などを行う。施設の安全確保を第一に、教育環境の充実に努める。	190,340 (2.4人) 207,380	68,672 (1.6人) 80,192	35,681 (1.6人) 47,361

28	学校給食共同調理所 運営事業 【学校給食課】	衛生管理の徹底などにより安全・安心な給食を市内小・中学校23校に年間190回を基準として提供するとともに、児童生徒に対する食指導を実施。	627,202	646,755	655,483
			(4.8人)	(4.8人)	(4.8人)
29	学校給食共同調理所 車両運行管理事業 【学校給食課】	新学校給食共同調理所から市内小・中学校23校に給食を配送する配送車の運行管理を行う。	56,904	49,586	56,906
			(0.2人)	(0.2人)	(0.2人)
30	特別会計高等学校費 【緑陵高等学校】	地域社会のニーズに応えるとともに、次代を担う人材を育成するための教育活動の推進、教育諸条件の整備に努めるとともに、生徒の学力向上とキャリア教育の充実を図る。 また、質の高い教育環境を維持し、特色ある教育活動を円滑に実施するために必要な教材教具の整備を図る。	105,688	157,420	136,277
			(47.0人)	(47.0人)	(47.0人)
			550,048	607,174	604,267

【外部評価意見】	
----------	--

令和7年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	4 豊かな心と生きる力をはぐくむまち	評価結果
基本施策	3 生涯学習の振興と社会教育の充実 市民の誰もがそれぞれの関心に応じて自由に学ぶことができるよう、多様なニーズに対応した学習機会や情報の提供を行うとともに、生涯学習センターや図書館等の施設について、適切な維持管理と利便性の向上に努めます。	
	担当課	

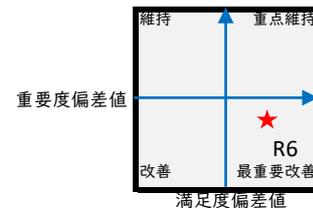


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (R3⇒R6)
満足度	17.7	15.4	12.8	17位/32施策⇒19位/32施策
重要度	0.482	0.528	0.618	10位/32施策⇒5位/32施策
改善度	1.94	2.49	11.10	13位/32施策⇒5位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2024年調査:-30.68～21.78]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	評価
市民大学及び高齢者講座の参加者数	270人 (H28)	↗	市民大学及び高齢者講座を受講した人の実数の合計	48人	108人	468人	401人	C
生涯学習センター「いわなび」利用者数	128,144人 (H28)	↗	生涯学習センター「いわなび」を利用した人の合計	57,909人	81,895人	91,834人	101,111人	B
市民1人当たりの図書貸出冊数	4.78冊 (H28)	↗	本館等の4図書施設における市民1人当たりの年間貸出冊数(個人+団体)	4.25冊	3.99冊	4.11冊	4.02冊	D
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 A:現状値より低下したが昨年度より向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 D:現状値及び昨年度ともに低下 現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数				成果指標評価		2.0		B

※★印は、コロナの影響後、現状値水準まで回復に至っていないため、評価を補正しています。

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に中程度にあり、本施策に対する満足度との関係性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は高く、重点的に施策を推進していく必要がある。また、年齢区別では、24歳以下の満足度が比較的高い傾向にある。 ・いわみざわ市民大学は全5回開催し、例年に比べ勤労者世代の参加率が高い年となったが、参加者数は令和5年度を下回っている。原因として、講座数が2講座少なかったことが考えられる。高齢者対象講座は各地区5回の開催をすることができたが、北村・栗沢地区の参加者数の減少が続いており、会場への移動手段の確保が困難なことが課題として考えられる。生涯学習センターの利用者数はコロナ前の水準には至っていないが、年間見込者数の年間10万人を上回ることができた。 ・図書館来館者数は昨年度と比較し微増しているが、利用者数及び貸出冊数は減少している。近年、娯楽やメディアの多様化で図書を活用される方が減少し、さらにパソコンやスマートフォンなどで小説やコミックを読むことができる電子書籍の普及などが一因と考えられる。 【R4年度 図書館平均貸出冊数】全国:4.92冊、北海道:3.69冊、岩見沢市:3.78冊 ※個人貸出のみ(学校等への団体貸出を除く)
----	---

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いわみざわ市民大学【5回、(延べ人数:176人)】、高齢者対象講座【15回、(延べ人数:225人)】 ・生涯学習センターにおいては、いわなび祭りの集客を図る事業に取り組み、その結果、利用者数は昨年度と比べ増加した。 ・図書館では、市民の多様なニーズに基づき計画的な蔵書整備を行うとともに、司書職員の専門性向上と地域サービス拠点の充実のほか、SNSなどの情報提供により利便性の向上を図った。また、ボランティアや市民団体、関係機関と連携し読書活動の促進や学習支援を図るなど、様々な取り組みを行った。
-------	--

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な社会情勢の変化に伴う市民の学習に対するニーズの多様化。 ・勤労者層(30代～50代)の学習活動・団体活動離れ。 ・図書館利用者のニーズや利用形態の変化に合わせたサービスの提供体制の充実。
-------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化するニーズを把握するとともに、オンラインも含めた参加しやすい学習環境づくりを進め、市民が主体的に学ぶ学習機会の充実を図る。 ・図書資料の充実や、他の図書館と連携し、様々なサービスの提供に努めるほか、多様化する市民ニーズを踏まえ、利便性向上の取り組みを継続し、貸出冊数を維持する。
--------	--

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
市民の学び支援事業 【生涯教育課】	生涯学習センターを拠点に、幅広い世代を対象として学習機会の充実を図った。いわみざわチャレンジスクールと高齢者対象講座、みんなで教育を考える日は前年比とほぼ同数となった。市民大学は講座の回数が減ったことから延べ人数が減少したが、1回あたりの平均は前年比と同数となった。 ・いわみざわチャレンジスクール:11回、延べ人数:290人 ・いわみざわ市民大学:5回176人(延べ人数:192人) ・高齢者対象講座:15回、60人(延べ人数:225人) ・みんなで教育を考える日:1回、44人	B	B	C
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 【達成度】 A 十分である B 概ね十分である C やや不十分である D 不十分である 【有効性】 非常に有効 有効 やや有効でない 有効でない 【効率性】 改善の余地なし 概ね効率が良い 改善の余地あり 大きく改善の余地あり		事業評価 2.7 C		

事務事業一覧

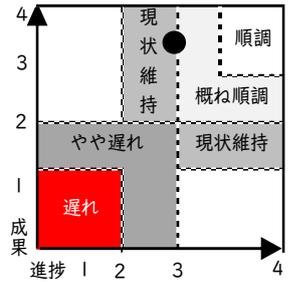
(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R4実績	R5実績	R6実績
1 社会教育委員活動事業 【生涯教育課】	岩見沢市社会教育委員の会議は、本市の社会教育に関する諸計画の立案や、教育委員会の諮問に応じ意見を述べるため、岩見沢市社会教育委員条例の規定に基づき設置されている。委員の定数は15名で、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から教育委員会が委嘱する。任期は令和8年3月31日までの2年間で、現委員は15名(うち2名は市民公募)。	491 (0.7人) 5,461	396 (0.5人) 3,996	728 (0.5人) 4,378
2 市民の学び支援事業 【生涯教育課】	生涯学習センター「いわなび」を拠点に、生涯学習の情報発信、相談体制、指導者育成の強化に努める他、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に学習機会の充実を図るとともに、学習成果を生かせる場の提供に努め、市民の学習活動を支援する。	7,041 (3.0人) 28,341	7,085 (3.0人) 28,685	7,642 (1.5人) 18,592
3 社会教育施設管理事業 【生涯教育課】	社会教育施設整備事業～社会教育施設の利活用を検証し、施設規模や利用形態から適切な施設運営と利用者負担を検討する。 指定管理者制度導入事業～市民ニーズの効率的、効果的な対応と行政コストの縮減のため、施設の管理・運営の形態として指定管理者制度の導入の適否を検討する。	120 (0.0人) 120	163,416 (0.0人) 163,416	545 (0.0人) 545
4 北村環境改善センター運営事業 【生涯教育課】	住民のコミュニティ活動を推進し、地域住民の文化を高めるとともに福祉と健康の増進を図るため、改善センターを設置し維持管理を行う。	14,400 (0.0人) 14,400	14,743 (0.0人) 14,743	15,915 (0.0人) 15,915
5 北村学習交流館運営事業 【図書館】	地域住民の学習活動を支援する拠点施設として、図書資料を提供し学習活動及び読書活動を支援する。	1,893 (0.0人) 1,893	2,085 (0.0人) 2,085	2,358 (0.0人) 2,358
北村ふるさと学習館運営事業 【生涯教育課】	R6.4.1 廃止	2,005 (0.2人) 3,425	2,002 (0.2人) 3,442	
6 郷土科学館管理事業 【生涯教育課】	教育、科学及び文化の発展に寄与する施設として、郷土資料の収集・展示やプラネタリウムの番組提供と科学等に関する事業を通じ、郷土理解や青少年の科学する心を育むとともに、関係機関と連携したパネル展など、社会的ニーズを把握しながら生涯学習の機会を提供する。	23,525 (0.7人) 28,565	27,224 (0.7人) 32,264	24,771 (1.0人) 32,071
7 来夢21施設管理事業 【図書館】	図書館、資料館、こども館からなる複合施設の管理を行うことにより、地域住民の文化振興と子どもの健全育成及び学習活動を支援する。	11,138 (0.0人) 11,138	11,736 (0.0人) 11,736	10,938 (0.0人) 10,938
8 生涯学習センター管理事業 【生涯教育課】	子どもから高齢者まで、市民の生涯にわたる学習を支援する場として、施設を維持管理する。	92,468 (0.2人) 93,888	92,097 (0.2人) 93,537	93,886 (0.1人) 94,616
9 図書館活動運営事業 【図書館】	市内4館の図書資料の収集・管理と利便性の高いサービスの提供に努め、子どもの読書活動の推進と幅広い世代に対応した読書普及活動を実施するとともに、市立図書館の計画的な整備を図る。	92,338 (6.0人) 134,938	98,224 (6.0人) 141,424	96,208 (5.0人) 132,708

【外部評価意見】	
----------	--

令和7年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	4	豊かな心と生きる力をはぐくむまち	評価結果
基本施策	4	芸術文化・スポーツの振興 市民の芸術文化活動への支援や芸術文化に親しむ環境づくりに努めるとともに、文化財や郷土芸能の保存・継承と活用を通じ、郷土への理解と関心の醸成を図ります。 また、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことのできるよう、競技スポーツと生涯スポーツの推進を図ります。 さらに、北海道教育大学岩見沢校とも連携し、市民が「芸術文化・スポーツのまち」を実感することのできる取組みを推進します。	
担当課	企画室、生涯教育課		

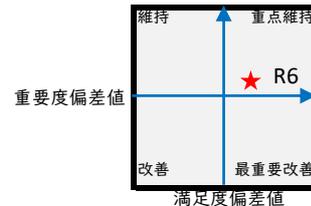


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (R3⇒R6)
満足度	21.6	20.6	17.8	8位/32施策⇒10位/32施策
重要度	0.451	0.484	0.590	25位/32施策⇒7位/32施策
改善度	-4.33	-8.68	2.75	26位/32施策⇒16位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合（数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。）【0～100】
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化（数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。）【-1～1】
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化（数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。）【2024年調査：-30.68～21.78】

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	評価
「市民の文化祭」の参加者数	9,175人 (H28)	↗	市民の文化祭」に出品・出演した人及び来場した人の合計	1,474	2,663人	3,537人	5,168人	B
資料館及び指定文化財の利用者数	6,239人 (H28)	↗	資料館及び指定文化財を見学及び利用した人の合計	3,218人	5,328人	5,334人	6,088人	A
「スポーツの日」記念岩見沢市総合体育大会の参加者数	2,692人 (H28)	↗	総合体育大会で各競技に参加した人の合計	1,505.0	2,974人	2,550人	2,951人	A
教育大との連携事業数	新規	↗	北海道教育大学岩見沢校と市との連携事業数	10	11	14	12	C
●成果指標の評価を4区分で評価（平均点）A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 A:現状値より低下したが昨年度より向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数 D:現状値及び昨年度ともに低下				成果指標評価		3.3		A

※資料館：郷土科学館、来夢21、北村環境改善センター郷土資料コーナー（北村の記憶）、指定文化財：旧国兼家住宅

※★印は、コロナの影響後、現状値水準まで回復に至っていないため、評価を補正しています。

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に高く、本施策に対する満足度との関係性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は比較的高く、引き続き施策を推進していく必要がある。また、年齢区分別では、24歳以下の満足度が高い傾向にある。 ・「市民の文化祭」の参加者数はR6年度より子ども文化祭の展示部門と合同で開催したことにより昨年度と比較して増加しているが、コロナ前の水準ほどには回復していない。 ・教育大との連携事業については、新型コロナウイルス感染症の5種移行に伴い、イベント等事業開催が再開されたことにより、実施数が増加した。
----	---

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台、音楽、伝統文化などの出来る限り幅広いジャンルで優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するとともに、幅広い世代における市民の文化活動の促進と地域文化の振興を図ることができた。 ・運動・スポーツの習慣化を図るため実施した「スポチャレ」（スポーツ庁補助事業）をはじめ、小学校低学年を対象とした「楽しいキッズスポーツ教室」の開催、各種スポーツ団体や全国大会、強化指定選手等の活動の支援を行うなど、運動やスポーツの日常化につなげることができた。 ・教育大との連携事業については、複数年にわたって連携している事業もあり、市内においても教育大の特色を活かした連携事業についての検討機会が増えた。 【R6連携実績】家族で楽しく運動しよう！-CAPS-Child運動あそびプログラム、いわみざわアートアカデミー、いわみざわチャレンジスクール、楽しいキッズスポーツ教室、岩見沢ビジネスチャレンジプロジェクト、アダプテッド・スポーツ体験デジタルスポーツ体験など
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化は、豊かな創造性や感受性を育み、市民の生活に潤いをもたらすものであり、優れた芸術文化に触れる機会の提供や情報発信、市民が気軽に活動できるような環境整備などを引き続き行う必要がある。 ・企画展の回数の増や来場者の増など、交流や活躍の機会が増加したことから、今後もi-BOX活動をサポートすることにより、市内における芸術文化の普及促進や地域と学生との結びつきの強化を図っていく。 ・スポーツ行事の内容によって、参加する世代に偏りが見られることから、より幅広い世代が参加する、各種スポーツ行事の開催や活動の補助が必要である。
-------	--

今後の方向性	<p>・今後も芸術・文化・郷土資料の鑑賞機会の提供に加え、自主的な文化活動の促進も図っていく。</p> <p>・30代～50代の子育て世代を中心に幅広い世代を取り込むことのできる運動・スポーツ習慣化事業をはじめ、各種スポーツ行事の開催や活動への補助により、生涯スポーツの振興を目指す。</p> <p>・教育大学の連携のもと施策を展開し、当市における貴重な地域資源である大学の価値を高めるとともに、i-BOXを中心に市内全域をフィールドとして、芸術文化・スポーツに触れられる豊かな環境づくりを進めるほか、学生と地域との交流により、学生が地域への関心や愛着を高め、卒業後の定住や将来のUターンを促進する素地を醸成する。</p>
--------	---

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
教育大学連携事業 【企画室】	<p>(企画推進事業のうち北海道教育大学との連携事業「i-BOX」)</p> <p>北海道教育大学岩見沢校と連携して、複合駅舎内に市民と学生の活動情報拠点「i-BOX」を設置し、i-BOX及びi-BOX以外での学生や教員による美術展等を開催するとともに、情報発信を行った。</p> <p>令和6年度 企画展23回 来場者3,189人 (令和5年度 企画展22回 来場者2,810人) (令和4年度 企画展25回 来場者2,671人) (令和3年度 企画展21回 来場者1,851人)</p>	B	B	B
地域文化振興事業 【生涯教育課】	<p>・そらち太鼓フェスティバル、札幌交響楽団による「まなみーるDEクラシック」、岩見沢にゆかりのあるアーティストによる「マチの記憶ライブ」の3事業を実施した。</p> <p>・また、令和元年度より、文学の普及発展を図ることを目的として、氷室冴子青春文学賞に対する支援として補助金交付を行っている。</p>	B	B	B
健康・スポーツ振興事業 【生涯教育課】	<p>・楽しいキッズスポーツ教室(全10回:参加者延べ481人)</p> <p>・全国大会等出場奨励金(個人85人・11団体)</p> <p>・市民歩け歩け大会(全3回:参加者延べ39人)※内1回中止</p> <p>・全道大会・全国大会開催補助(6件)</p> <p>・スポチャレ(全3回:参加者延べ2,060人)※スポーツ庁補助事業</p>	B	B	B
芸術文化・スポーツ交流創出事業 【生涯教育課】	<p>市内東部丘陵地域の住民らでつくる市民団体「みる・とーぶプロジェクト」に旧美流渡中学校校舎の機能や設備の利活用をすすめ試験的な利用を行った。建物の用途が「学校」であるため、不特定多数の人々の利用が制限されたことにより、屋外でのワークショップ開催と、校舎内部ではみる・とーぶプロジェクト実行委員会メンバーによる、作品制作活動や演奏練習活動を中心に行った。</p> <p>【年間入場者数:2,688人】※昨年比0.46倍(R5来場者数:5,812人)</p>	B	B	B
<p>●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点</p> <p>【達成度】 【有効性】 【効率性】</p> <p>A 十分である 非常に有効 改善の余地なし</p> <p>B 概ね十分である 有効 概ね効率が良い</p> <p>C やや不十分である やや有効でない 改善の余地あり</p> <p>D 不十分である 有効でない 大きく改善の余地あり</p>		事業評価	3.0	B

事務事業一覧

(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R4実績	R5実績	R6実績
1 教育大学連携事業 【企画室】	(企画推進事業のうち教育大学分) i-BOXの運営など、地域に開かれた大学を実現するとともに、市民と学生の交流活動を促進する。	3,231 (0.5人)	3,008 (0.5人)	6,447 (0.5人)
		6,781	6,608	10,097
2 絵画ホール運営事業 【生涯教育課】	岩見沢市における美術の振興を図るため、収集している松島正幸氏の絵画の常設展示をするとともに、岩見沢市にゆかりのある美術家の作品の収集・保管・展示さらに教育普及活動や企画展示等を行い、将来を見通した特色ある運営に努める。	10,365 (0.0人)	10,536 (0.0人)	9,061 (0.1人)
		10,365	10,536	9,791

3	栗沢工芸館管理事業 【生涯教育課】	R4.4.1休止	1,048 (0.0人) 1,048	785 (0.2人) 2,225	670 (0.0人) 670
4	市民会館文化センター管理事業 【生涯教育課】	市民の文化教養の向上と、市民福祉の増進や教育の振興を図る目的のため、生涯学習活動に対する多様なニーズに対応した活動の場を提供する。	133,453 (0.0人) 133,453	112,978 (0.0人) 112,978	469,590 (0.4人) 472,510
5	野外音楽堂管理事業 【生涯教育課】	薫り高い芸術・文化を創造・発信し、市民が芸術文化を享受する地域文化を推進するため、野外音楽堂の施設環境の充実を図り、来場者が快適な環境で芸術文化を享受できるように管理運営を行う。	20,699 (0.0人) 20,699	21,001 (0.0人) 21,001	20,901 (0.1人) 21,631
6	地域文化振興事業 【生涯教育課】	個性豊かな市民文化の創造に向けて、自主的な文化活動が多彩に繰り広げられ、身近に芸術・文化にふれあう機会を拡大するとともに、歴史や地域性を生かしたまちづくりを進め、うるおいとやすらぎのある文化性の高いまちの環境づくりを推進する。	4,537 (1.0人) 11,637	5,762 (1.0人) 12,962	9,179 (2.0人) 23,779
	文化のまちづくり事業 【生涯教育課】	野外音楽堂や市民会館・文化センターなどを拠点に、舞台、音楽、伝統文化などの多彩なジャンルで優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するとともに、市民の文化活動を促進し、地域文化の振興を図る。 R6年度より当事業の補助金を縮小し、地域文化振興事業へ移管	9,700 (1.0人) 16,800	7,500 (1.0人) 14,700	/
7	文化財・文化遺産保存管理事業 【生涯教育課】	文化財は、地域の歴史や文化等を正しく理解する上で欠くことのできないものであり、文化の向上発展のため、適切な保存を行う。	6,350 (1.0人) 13,450	5,133 (1.0人) 12,333	4,775 (1.0人) 12,075
8	健康・スポーツ振興事業 【生涯教育課】	市民の誰もが気軽にスポーツに親しめる機会の充実を図るとともに、各種スポーツ団体をはじめ、全国大会等出場やオリンピック・パラリンピックを目指す強化指定選手等の活動を支援する。	12,608 (1.0人) 19,708	10,658 (2.0人) 25,058	18,403 (2.0人) 33,003
9	体育施設管理事業 【生涯教育課】	市民の健康、体力づくりの普及振興を図るため施設の維持管理を行う。	2,699 (0.5人) 6,249	4,477 (0.5人) 8,077	10,354 (0.5人) 14,004
10	スポーツセンター・岩見沢トレーニングセンター運営事業 【生涯教育課】	・市民の健康づくり及び競技スポーツの振興と環境整備のため、スポーツセンターの維持管理を行う。 ・市民の基礎体力向上と健康増進を図るための施設であるトレーニングセンターの維持管理を行う。	46,147 (0.0人) 46,147	46,633 (0.0人) 46,633	53,731 (0.3人) 55,921
11	東山・岡山地区スポーツ施設運営事業 【生涯教育課】	・安全で快適なスポーツ環境を提供するため、各スポーツ施設を維持管理を行う。 ・市民の健康づくり及び競技スポーツの振興と環境整備のため、東山・岡山地区スポーツ施設の維持管理を行う。	37,287 (0.0人) 37,287	51,808 (0.0人) 51,808	37,338 (0.3人) 39,528
12	鉄北地区スポーツ施設運営事業 【生涯教育課】	・安全で快適なスポーツ環境を提供するため、各スポーツ施設を維持管理を行う。 ・市民の健康づくり及び競技スポーツの振興と環境整備のため、総合体育館の維持管理を行う。	37,631 (0.0人) 37,631	41,011 (0.0人) 41,011	38,846 (0.1人) 39,576
13	温水プール・北村プール運営事業 【生涯教育課】	年間を通じて利用可能な温水プールを管理運営する。手軽なスポーツである水泳を通じ市民の健康づくりを支援する環境を提供する。	38,219 (0.0人) 38,219	51,584 (0.0人) 51,584	47,003 (0.3人) 49,193
14	北村多目的体育館・土里夢公園パークゴルフ場運営事業 【生涯教育課】	市民の健康づくり及び競技スポーツの振興と環境整備のため、維持管理を行う。	18,888 (0.0人) 18,888	21,099 (0.0人) 21,099	21,000 (0.1人) 21,730
15	北村トレーニングセンター運営事業 【生涯教育課】	市民の健康づくり及び協議スポーツの振興と環境整備のため、維持管理を行う。	10,237 (0.0人) 10,237	11,275 (0.0人) 11,275	11,372 (0.1人) 12,102
16	栗沢スポーツ公園運営事業 【生涯教育課】	市民の心身の健全な発達及び体育の普及・振興を図り、快適なスポーツ環境を提供する。	28,438 (0.0人) 28,438	213,805 (0.0人) 213,805	30,348 (0.1人) 31,078

17	芸術文化・スポーツ交流創出事業 【生涯教育課】	旧美流渡中学校校舎の活用について試験利用を行うとともに、利用結果の検証を通じ、旧美流渡地区の地域特性である芸術文化・スポーツを活かした新たな交流拠点の創出を目指す。	3,004	3,322	11,131
			(0.0人)	(0.0人)	(0.3人)
			3,004	3,322	13,321
	開庁140年・市制施行80周年事業 【企画室・生涯教育課】	開庁140年・市制施行80周年の節目を祝う記念事業を実施し、140年の歴史と先人の苦勞を振り返り、未来に向けたまちづくりへの思いを新たにす。		8,767 (0.0人)	
				8,767	

【外部評価意見】	
----------	--